

子どもの日本語教育研究会 第10回大会 3月8日(オンライン)

# 高等学校における日本語指導担当者のための研修 —進路選択とキャリア形成を支える教育の実現にむけて—

1

工藤聖子・小西円・齋藤ひろみ・原瑞穂(東京学芸大学)・市瀬智紀(宮城教育大学)

# 1. 発表の目的

令和5年度～高等学校においても日本語指導を  
「特別の教育課程」として編成・実施

令和6年度に「特別の教育課程」の理解と、外国人生徒の社会参画・キャリア開拓を目指した日本語指導に関する研修を実施

「高等学校における日本語教育」に関する  
研修の内容構成・実施方法を検討



## 豆の木モデル

| 資質・能力の4要素と課題領域 |             | 求められる具体的な力   |
|----------------|-------------|--|
| 捉える力           | 子どもの実態の把握   | 文化間移動と発達の視点から、外国人児童生徒等の状況を把握することができる。                  |
|                | 社会的背景の理解    | 外国人児童生徒等の背景や将来を、社会的、歴史的文脈に位置付けることができる。                 |
| 育む力            | 日本語・教科の力の育成 | 外国人児童生徒等の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行うことができる。 |
|                | 異文化間能力の涵養   | 外国人児童生徒等と周囲の子どもとの相互作用を通して、双方に異文化間能力を育てることができる。         |
| つなぐ力           | 学校づくり       | 保護者や地域の関係者と連携・協力して、よりよい支援、教育のための学校体制をつくることができる。        |
|                | 地域づくり       | 異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりをすることができる。                |
| 変える/変わる力       | 多文化共生社会の実現  | 社会的正義と公正性を意識し、多文化共生を具現化することができる                        |
|                | 教師としての成長    | 外国人児童生徒等に関する教育・支援活動を振り返り、自己の成長につなげることができる。             |

公益社団法人日本語教育学会(2020)『文部科学省委託2017-2019年度 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」のガイドブック』



## 2. 研修の概要①

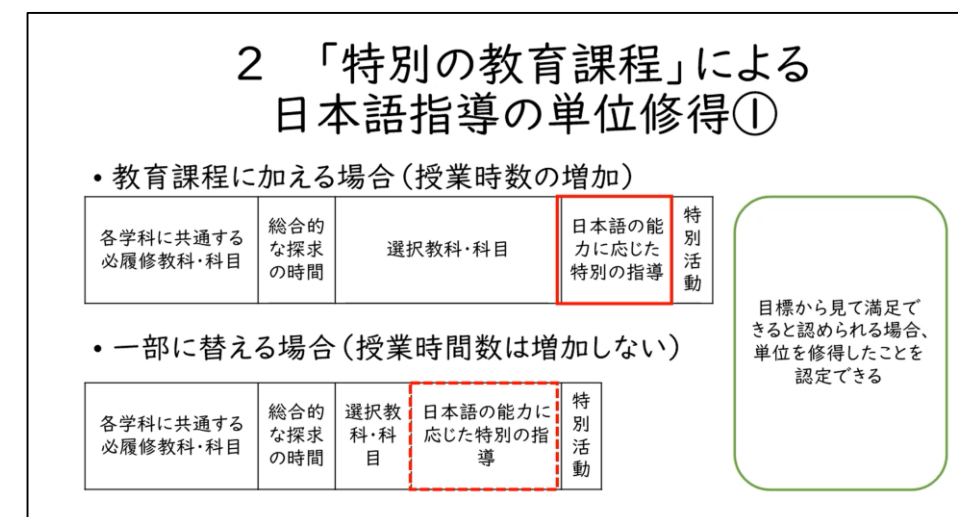
### 研修A 「文化間移動する高校生の日本語指導」

●オンライン 各2時間 ●定員 100名→150名

#### ●構成

- 0 事前の本制度に関するビデオ視聴
- 1 テーマに関わる講義
- 2 「特別の教育課程」実施校の報告
- 3 小グループでの参加者間交流で構成

| 回                   | テーマ               | 資質・能力                                    |
|---------------------|-------------------|--|
| 第1回<br>6月9日<br>(日)  | 進路選択で重視される「日本語の力」 | ・捉える力(社会的背景の理解)<br>・育む力(日本語・教科の力の育成)     |
| 第2回<br>7月7日<br>(日)  | キャリア開拓のための日本語指導   | ・育む力(日本語・教科の力の育成)<br>・つなぐ力(学校づくり)        |
| 第3回<br>8月19日<br>(月) | 社会参加のための力を育む日本語指導 | ・育む力(異文化間能力の涵養)<br>・変わる/変える力(多文化共生社会の実現) |



# 2. 研修の概要①

## 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット

コンテンツの二次利用について

- 概要
- 調査研究事業
- 開発事業
- 研修事業**
- 受託事業
- リソース
- お問い合わせ
- サイトマップ

### 研修事業

- 2024年度シンポジウム 日程・テーマ・概要
- 2024年度研修 日程・テーマ・概要・ねらい
- 2024年度実践交流会 日程・テーマ・概要・ねらい
- 2024年度研修報告** (実施後に、報告書・当日の資料(公開可能なもののみ)をアップ)
- 2023年度研修「外国人児童生徒等教育研修」報告・資料 (6回)
- 2023年度研修「高等学校における日本語指導・体制整備に関する研修」(文科省事業) 報告・資料(8回)

<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project03/>

### 研修A 第1回報告「進路選択で重視される「日本語の力」—日本語能力試験への挑戦—

**概要**  
研修実施日: 2024年6月9日  
参加者: 135名  
アンケート回収数: 96件(70.5%)

**研修のねらいと目標**  
外国人児童生徒等教育研修の推進を目的とするプログラムの開発、及びその普及を図る。

**プログラム**  
①講義1 「特別の教育課程」の編成による日本語指導  
—日本語能力試験(JLPT)の学習を「個別の指導計画」に位置付ける—  
齋藤ひろみ(東京学芸大学)  
②講義2 「進路選択の幅を広げる日本語の力を育む」  
—日本語能力試験(JLPT)対策を運用力向上のための学習に—  
市瀬智紀(宮城教育大学)  
③報告 「特別の教育課程」としての日本語指導実施校より  
「特別の教育課程」の日本語  
高島みゆき(東京学芸大学附属 elementary school 特別支援科 教員)  
藤野 真 (同 日本語指導文員)

**アンケートより**  
「参加者の子どもの日本語教育への関わり」  
・参加者の子どもの日本語教育への関わりは、主に「日本語指導」である。  
・参加者の子どもの日本語教育への関わりは、主に「日本語指導」である。  
・参加者の子どもの日本語教育への関わりは、主に「日本語指導」である。

**参加者の声**  
「参加者の子どもの日本語教育への関わり」  
・参加者の子どもの日本語教育への関わりは、主に「日本語指導」である。  
・参加者の子どもの日本語教育への関わりは、主に「日本語指導」である。  
・参加者の子どもの日本語教育への関わりは、主に「日本語指導」である。

○当日の資料(敬称略) 青字部分をクリックしてください。ダウンロードできます。

- 講義1** 「特別の教育課程」の編成による日本語指導  
—日本語能力試験(JLPT)の学習を「個別の指導計画」に位置付ける—  
齋藤ひろみ(東京学芸大学)
- 講義2** 「進路選択の幅を広げる日本語の力を育む」  
—日本語能力試験(JLPT)対策を運用力向上のための学習に—  
市瀬智紀(宮城教育大学)
- 報告** 「特別の教育課程」としての日本語指導実施校より  
「特別の教育課程」の日本語

<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project03/content9.html>



## 2. 研修の概要②

### 第1回 進路選択で重視される「日本語の力」 —日本語能力試験へのチャレンジ—

参加者136人

- ①講義:「特別の教育課程」の編成による日本語指導
  - 日本語能力試験(JLPT)の受験を「個別の指導計画」に位置付ける—  
齋藤ひろみ(東京学芸大学)
- ②講義:「進路選択の幅を広げる日本語の力を育む」
  - 日本語能力試験(JLPT)対策を運用力向上のための学習に—  
市瀬智紀(宮城教育大学)
- ③報告:「特別の教育課程」としての日本語指導実施校より  
関東地方 A高等学校 定時制(3部制・単位制)
- ④交流

## 2. 研修の概要②

### 第1回 進路選択で重視される「日本語の力」 —日本語能力試験へのチャレンジ—

#### ①講義:「特別の教育課程」の編成による日本語指導

—日本語能力試験(JLPT)の受験を「個別の指導計画」に位置付ける—

齋藤ひろみ(東京学芸大学)

#### 3 日本語指導のプログラムに JLPTの学習を配置

プログラムA 来日後の日本語  
プログラムB「日本語基礎」  
プログラムC「技能別日本語」  
プログラムD「日本語プロジェクト」

・言語知識(文字・語彙、文法)の学習は、プログラムBの日本語基礎に  
・それらを運用する読解・聴解の学習を、プログラムC(技能別)やプログラムD(プロジェクト)で

日本語の基礎的な構造・意味・機能を理解し、生徒の生活場面や学習場面で運用できるようになることをねらいとする。日本語基礎は日本語の学習経験がない生徒を対象とし、順にⅠ→Ⅱ→Ⅲと積み上げて学ぶように構成されている。

まとまりのある内容の文章・談話を聞いたり、話したりする力、そして、読んだり書いたりする力、を高めるプログラム。タスク(課題)を設定し、そのタスクを遂行するプロセスで、学習した日本語の基礎的な構造・意味・機能に関する知識を活性化し運用することを促す。

外国人生徒が共生社会の一員として自己を実現し、よりよい社会をつくるために、実際に問題・課題を解決する活動(プロジェクト)を通して、思考し、判断し、表現するためのことばの力を高めることをねらいとする。

#### 日本語の技能とその運用のためのプロジェクト型の指導を中心にする計画で

<タイプB(来日3年、生活言語能力があり、学力・母語は学年相応)の生徒の場合>  
・学習参加のための日本語の力として日本語の各技能の発達と、その力を実際の問題解決など必要な日本語の運用力を育むイメージ  
・基礎的な力が不十分であれば、プログラムBで手厚く

|                   | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|-------------------|----|----|----|----|
| プログラムA「生活のための日本語」 |    |    |    |    |
| プログラムB「日本語基礎」     | →  | →  | →  |    |
| プログラムC「技能別日本語」    | →  | →  | →  |    |
| プログラムD「日本語プロジェクト」 | →  | →  | →  | →  |

1年: JLPTのN3に挑戦 プログラムBで文字・語彙の学習  
プログラムCで読む・聞く学習  
2~3年: JLPTのN2に挑戦 プログラムB・Cで文字・語彙の学習  
プログラムDで読む・聞く学習

**プログラムB(日本語基礎):**  
表現の学習後に、その表現を利用して、教科の図表・絵図等を読み取り表現する。

**プログラムC(技能別):**  
学校の掲示物、学校からのお知らせ・通知について、内容構成のパターンを分析し、読み取る。

**多文化共生の活動として:**  
読み取った学校の通知文を、後輩が利用できるように母語訳を作成したり、易しく書き換える。

## 2. 研修の概要②

### 第1回 進路選択で重視される「日本語の力」 —日本語能力試験へのチャレンジ—

#### ②講義：「進路選択の幅を広げる日本語の力を育む」

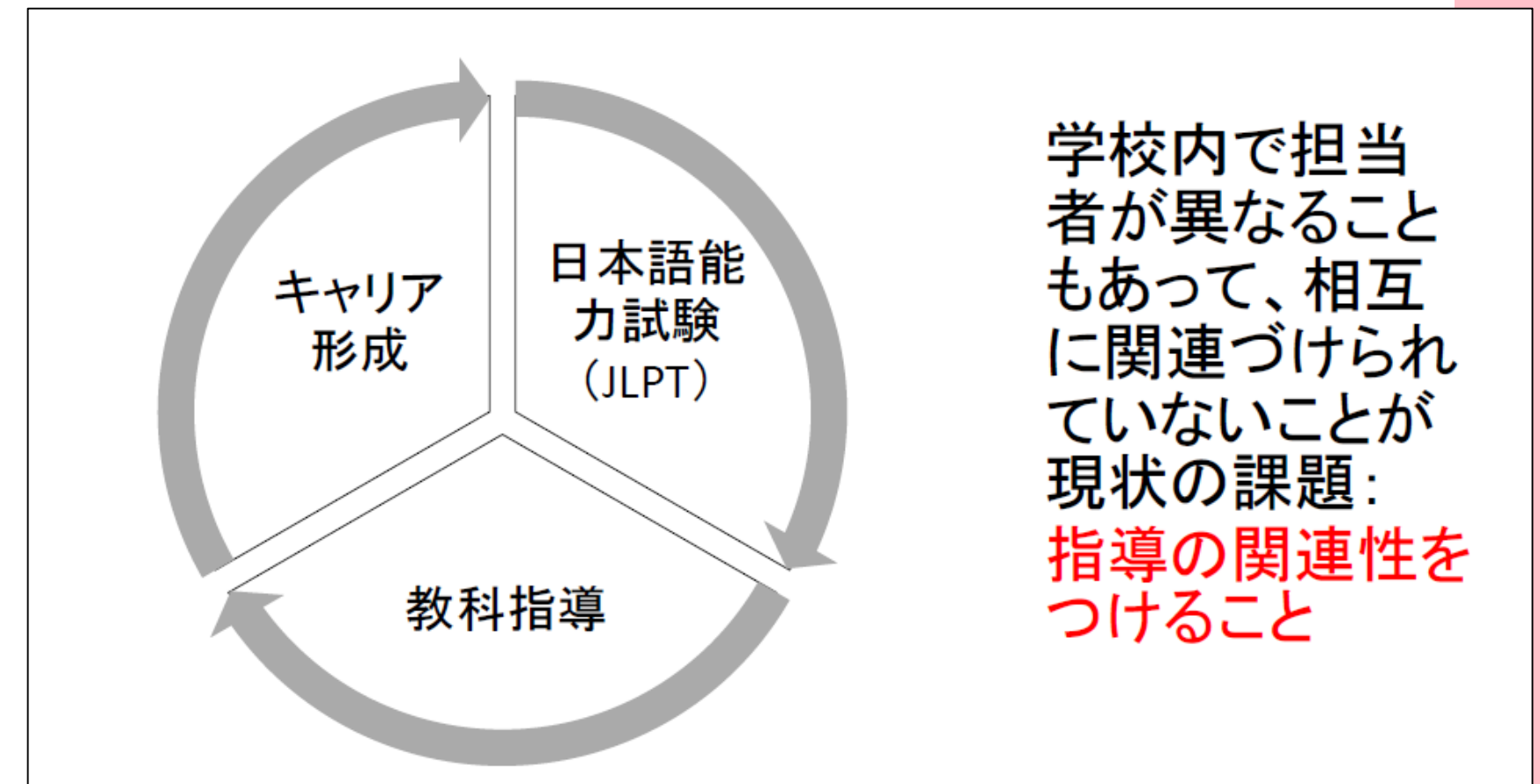
—日本語能力試験(JLPT)対策を運用力向上のための学習に—

市瀬智紀(宮城教育大学)

#### 文末表現の習得は国語の読み取りに最も影響する (N2文法)

|                                |                               |
|--------------------------------|-------------------------------|
| ～おそれがある                        | ～ところに                         |
| ・今夜は大昔の恐れがある。                  | ・出かけようとしていたところに、雨が降り出した。      |
| ～ざるをえない                        | ～とたんに                         |
| ・生きるためには働かざるをえない。              | ・仕事を始めたとたんに、停電がおこった。          |
| ～しかない                          | ～あげくに                         |
| ・お金がないので歩いて帰るしかない。             | ・さんざんお金をつかったあげくに、借金をしてしまいました。 |
| ～ずにはいられない                      | ～たびに                          |
| ・好きなゲームソフトが並んでいて、買わずにはいられなかった。 | ・父は出張のたびに、お土産をかってくる。          |
| ～ないではいられない                     | ～最中だ                          |
| ・あの人の冗談には、だれもが笑わないではいられない。     | ・テレビをつけたら、試合の最中だった。           |
| ～に違いない                         | ～ところへ                         |
| ・確認したところ、ミスがあったにちがいない。         |                               |

8





## 2. 研修の概要②

### 第1回 進路選択で重視される「日本語の力」 —日本語能力試験へのチャレンジ—

【特別の教育課程】  
4単位(週2時間×2日)  
自由選択科目時間に選択

まんが「世界の歴史」、  
「日本の歴史」中学校の理科、  
社会の教科書を購入

JLPT合格により増単位  
JLPTN3:1単位  
JLPTN2:2単位  
JLPTN1:3単位

#### 事例紹介:

【日本語教材を使って】語彙力アップのトレーニング、敬語トレーニング、JLPT受験対策  
【個に合わせて】ゲーム・漫画、歌の翻訳、スマホストラテジー、教科支援

③報告:「特別の教育課程」としての日本語指導実施校より  
関東地方 A高等学校 定時制(3部制・単位制)

## 2. 研修の概要③

### 第2回 キャリア開拓のための日本語指導

参加者125人

①開会・趣旨説明

②キャリアを開拓する日本語指導

—職業的専門性に関連付けた日本語学習活動を例に—

東京学芸大学 小西円・齋藤<sup>10</sup>ひろみ、明治大学 武内博子

③「特別の教育課程」による日本語指導実施校の報告

関東地方 B高等学校（定時制）

④交流

## 2. 研修の概要 ③

### 第2回 キャリア開拓のための日本語指導

#### ②キャリアを開拓する日本語指導

—職業的専門性に関連付けた日本語学習活動を例に—

東京学芸大学 小西円・齋藤ひろみ、明治大学 武内博子

#### 調理師専門学校で求められる力 (学校への聞き取りから)

##### (1) 座学で行う授業の理解

- > 事前配布資料や教科書の理解
- > 講義の理解
- > 提出物やテスト(課題)のクリア
- > PCなどのデバイスの利用と理解

##### (2) 調理実習でのパフォーマンス

- > 事前配布のレシピや教科書の理解
- > 教員の指示の理解
- > グループ作業が多いため、メンバーとのコミュニケーション

##### (3) それらの前提としての基礎学力

- > たとえば分量の計算、割合の計算 など

高校で培おうと  
している力(高校で  
の学習参加や活動  
参加に必要となる  
力)とほぼ重なる

11

#### 3-4 授業の展開例①

—1時間目のタスク1について

**目標1** 介護における自立支援・個人の尊厳について理解する。

**タスク1)** 食事介助で使用する食器や住宅の工夫について必要な理由、使用するメリット等を考える。

##### 活動流れ:

- ①食事介助で使用する食器を見て、生徒自身が使用するものとの違い、どのような人が使うかについて話し合う。
- ②食事介助用の食器の名称を知り、その使用のメリットについて話し合う。「~ので、~(する)時に安定します」等の表現で
- ③住宅の工夫の絵を見ながら、なぜ、その工夫が必要かを話し合う。「~になっているため、~がスムーズにできる」「~があると/ないと、~が不自由な人にとっては、~が困難だ」等の表現で



## 2. 研修の概要 ③

### 第2回 キャリア開拓のための日本語指導

②「特別の教育課程」による日本語指導実施校の報告

関東地方 B高等学校（定時制）

2024年度  
特別の教育課程:「日本語基礎」  
学校設定科目:「日本語 I」

アクティビティと結びついた活動  
例:「自己紹介、他己紹介」  
「先生方にインタビュー」  
「自分のテスト時間割をつくろう」等

持続可能な体制づくり  
→日本語教育の専門知識がない  
一般教員が指導できるように。  
→日本語指導担当者は「共生部」  
として公務分掌化する

生徒の変化:授業の感想入力等で、日本語が上手になってきたと感じることが増えた、日本語を覚えようとする姿勢が強くみられるようになった。  
職場の変化:「やさしい日本語」で通知をするなど外国人生徒・保護者に配慮しようとする雰囲気生まれた、日本語指導についての関心が高まった、授業内容が深められなくなってしまった

## 2. 研修の概要④

参加者 119人

### 第3回 「社会参加のための力を育む日本語指導」

①開会・趣旨説明

②社会参加のためのことばの力を育む

—社会に関わりつづけ、問題を解決するために—

齋藤ひろみ・小西円(東京学芸大学) 市瀬智紀(宮城教育大学)

事例報告

13

北陸地方 C高等学校

③「特別の教育課程」による日本語指導実施校の報告

北海道地方 D工業高等学校

④交流

## 2. 研修の概要 ④

### 第3回 「社会参加のための力を育む日本語指導」

#### ②社会参加のためのことばの力を育む

—社会に関わりつづけ、問題を解決するために—

齋藤ひろみ・小西円(東京学芸大学) 市瀬智紀(宮城教育大学)



#### 1 社会参加…自身の力を生かして自己実現する社会的存在としての自己認識と、社会を切り拓く力

14

高等学校における日本語指導・外国人生徒等教育の課題  
課題3 外国人生徒等の社会参画・キャリア支援の充実 『手引』p.13より  
高等学校の出口である進学・就職は、生徒にとっては社会参画のスタートともなります。生徒の**キャリア形成**を念頭に地域の**社会・産業構造**、就業・進学の**仕組みなどの具体的な学習**とともに、**社会的存在として自己認識を形成**する教育を行います。

**キャリア**:人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

**キャリア教育**:一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(文部科学省の定義)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm)

#### キャリア発達…ライフキャリアの視点で

- ・生涯にわたる**長期的なプロセス**・**社会との相互作用**  
(社会の一員として主体的に生きる)
- ・**自己の能力を開拓**し自分らしい生き方を実現
- ・自己認識と社会的認識の統合による**自己理解**

14

#### 3 日本語「プログラムD(プロジェクト活動)」で社会参加のためのことばの力を育む

プログラムA「生活来日後の日本でプログラム。日本語を使用プログラムB「日本語の基礎的ことをねらいとする。日本語基礎は日本語の学習経験がない生徒を積み上げて学ぶように構成されている。

プログラムA・B・Cを通じて獲得した言語知識・技能を、プログラムDで、社会的活動に参加するためのプロジェクト活動の実施を通して、「自己の可能性に気づき」「持続的に自身の力を開発していく力」「社会に働きかけ社会を変えていく力」とともに、ことばの力を育む

プログラムC「技能別日本語」  
まとまりのある内容の文章・談話を聞いたり、話したりする力、そして、読んだり書いたりする力、を高めるプログラム。タスク(課題)を設定し、そのタスクを遂行するプロセスで、学習した日本語の基礎的な構造・意味・機能に関する知識を活性化し運用することを促す。

プログラムD「日本語プロジェクト」  
外国人生徒が共生社会の一員として自己を実現し、よりよい社会をつくるために、実際に問題・課題を解決する活動(プロジェクト)を通して、思考し、判断し、表現するためのことばの力を高めることをねらいとする。

22



## 2. 研修の概要 ④

### 第3回 「社会参加のための力を育む日本語指導」

#### 事例報告

#### 北陸地方 C高等学校

##### ●学校設定科目「キャリアアップ」

1学期:漢字・語彙・文法／読解・自分を見つめるアクティビティ

2学期:話し合いからの授業・学校生活への批判

→テーマ「先生たちに私たちのことをわかってもらうにはどうしたらいいか」

→学校長への要望書作成

##### ★要望書作成の中での日本語指導

#### プログラムD 日本語プロジェクトの活動を考えてみよう！

生徒の一人が、次のような発言をしています。このエピソードを学習の機会ととらえ、日本語プロジェクトの活動を行うなら、どのように計画しますか。

「寿司屋のバイトの募集があったから、電話してみた。バイト希望だって伝えて、面接を申し込もうとしたら、「うちでは外国人はいらない」と言われた。すごく頭にきた。仕返しに、ネットに、店の悪口を書き込んでやりたい！」

|                   | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|-------------------|----|----|----|----|
| プログラムA「生活のための日本語」 |    |    |    |    |
| プログラムB「日本語基礎」     | →  | →  | →  |    |
| プログラムC「技能別日本語」    | →  | →  | →  |    |
| プログラムD「日本語プロジェクト」 | →  | →  | →  | →  |

プロジェクト…教科とのクロスカリキュラムで！

- ◆ ネットトラブル:なぜ「炎上」は起きるのか
- ◆ 労働者の権利:「ブラック企業」では何が起きている？
- ◆ 自立すること:「おとな」のイメージ、18歳から大人？

<タイプB(来日3年、生活言語能力があり、学力・母語は学年相応)の生徒の場合>

1年生で学習した日本語の知識・技能(プログラムB、Cで)を活かし、2年生からは、積極的に、生徒の経験や関心、また、有する力を発揮して社会的な問題・課題に関して、探究し行動するプロジェクト型の学習を実施する。

## 2. 研修の概要 ④

### 第3回 「社会参加のための力を育む日本語指導」

- 学校設定科目

「日本語基礎」(1単位):使用教科書「GENKI」

「日本語指導」(1単位):週2回始業前

- プリントや黒板等のルビ振り

「現代の国語」「公共」「保健」の授業への入り込み指導

地域連携:

近隣の大学との連携、地域の日本語教育研究会主催の日本語サロンへの参加、地域の日本語教育研究会からの非常勤講師派遣

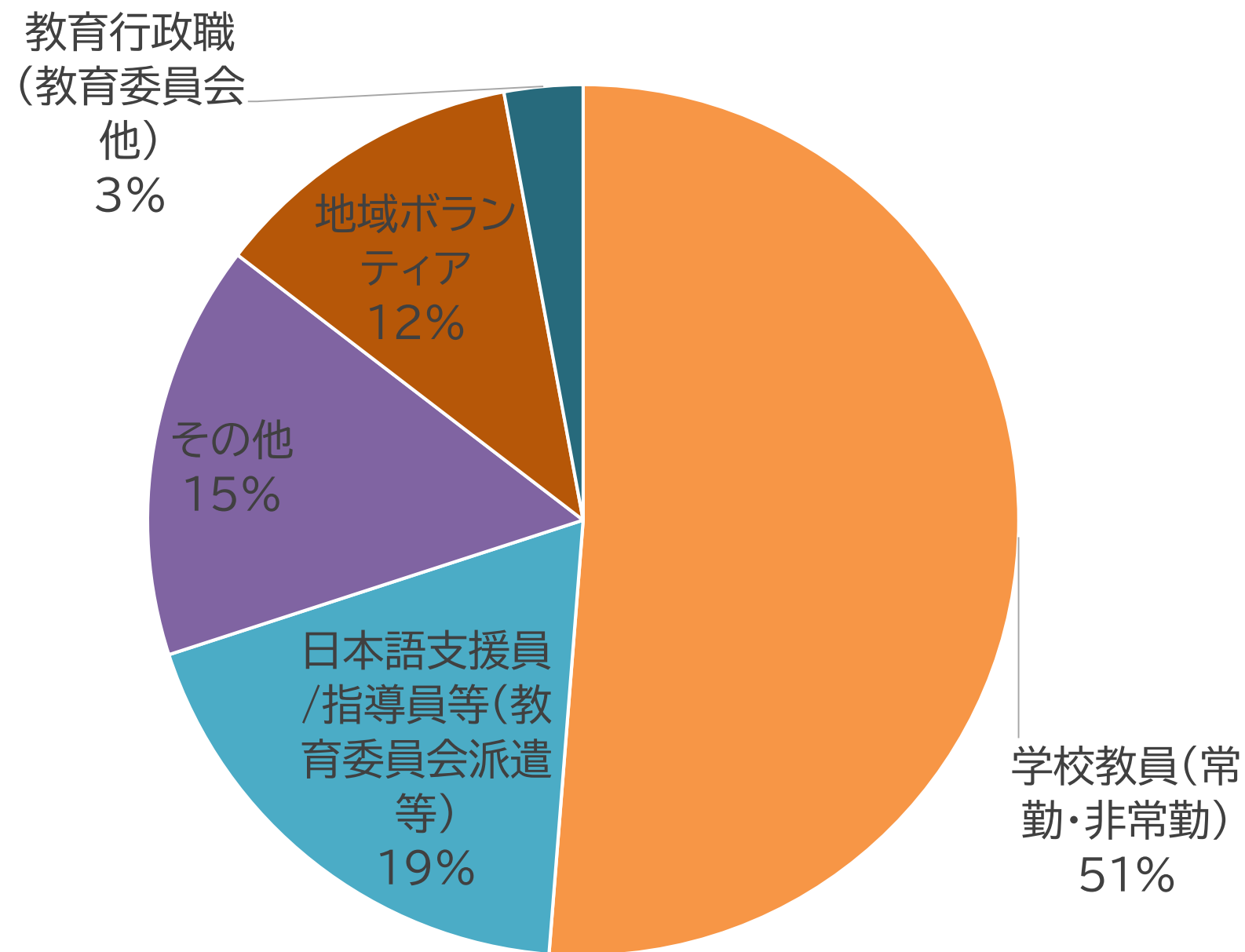
授業変更や来校する大学生の情報をGoogle Classroomによって高校、大学、地域の日本語教育研究会で情報共有

### ③「特別の教育課程」による日本語指導実施校の報告

北海道地方 D工業高等学校

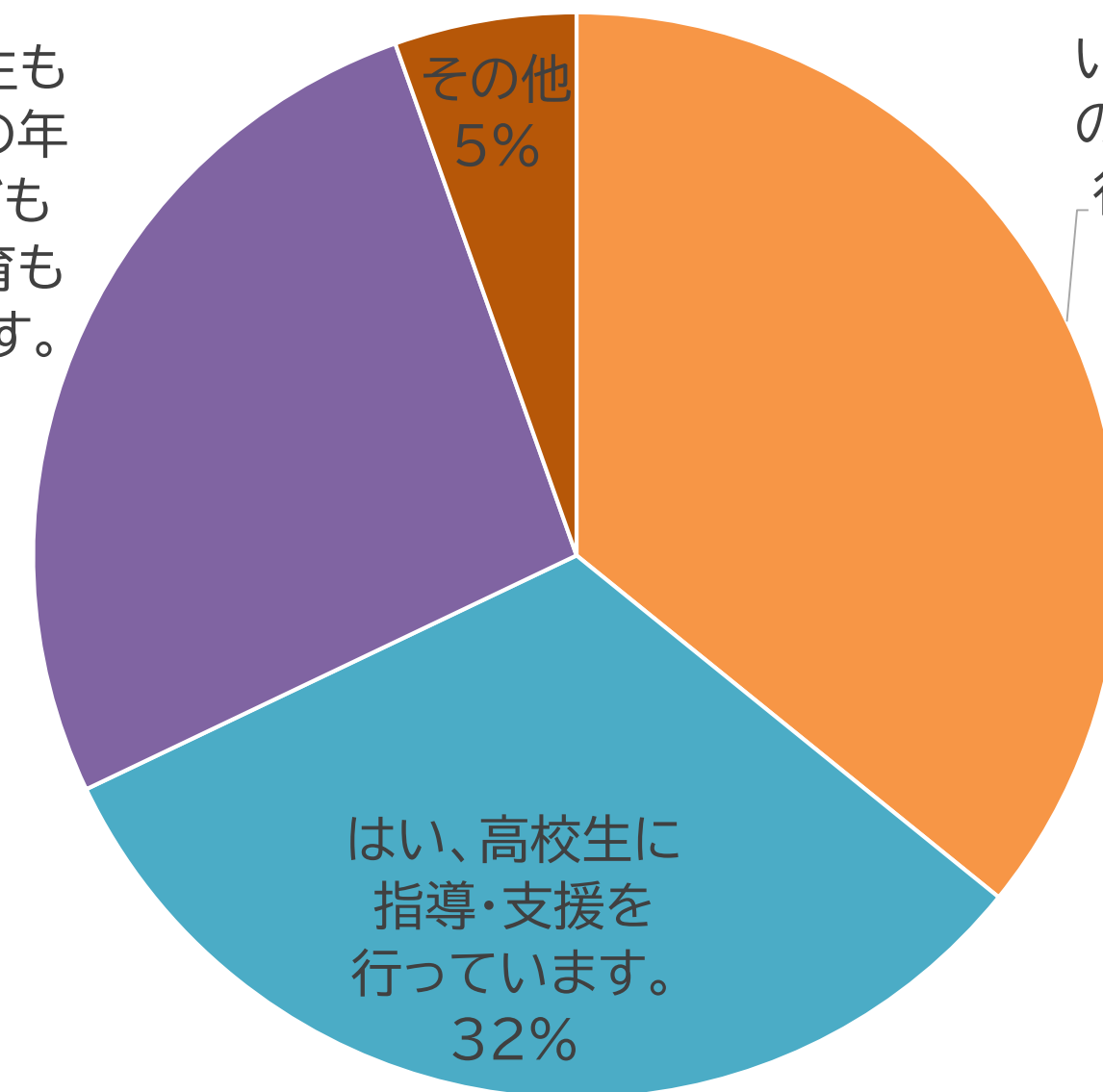
# 3. アンケート結果から

## お立場



## 支援・教育対象者は高校生ですか

はい、高校生も含めて、他の年齢層の子ども  
の支援・教育も行っています。  
27%



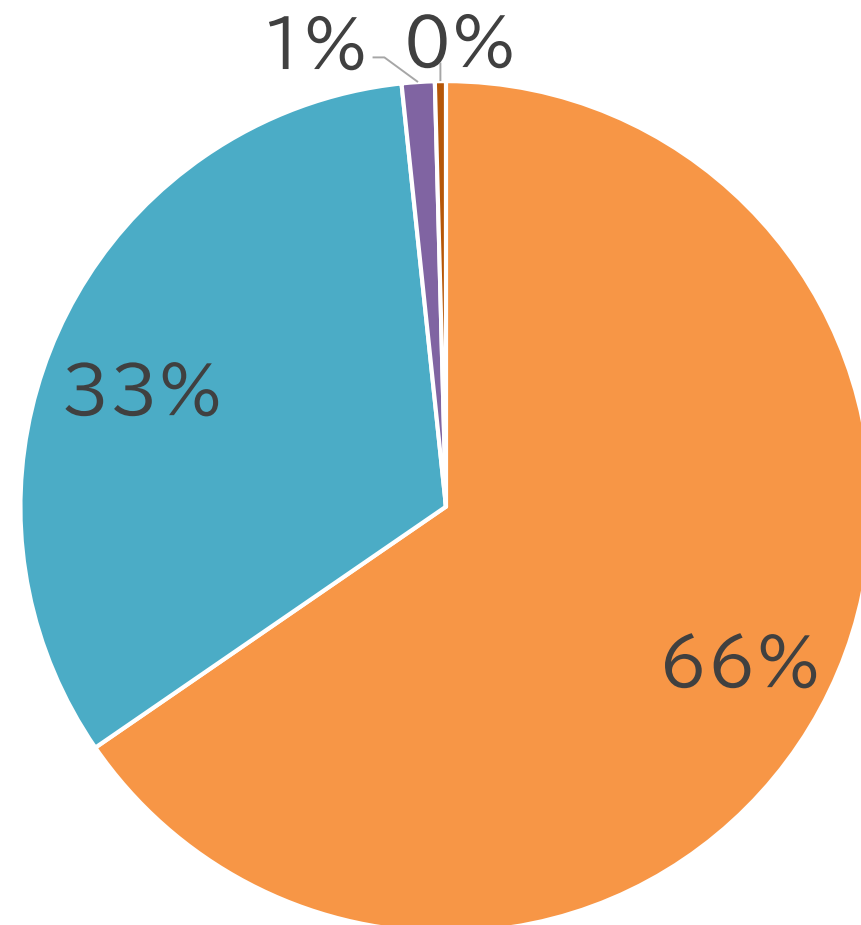
いいえ、高校生の支援・教育は  
行っていません  
36%



# 3. アンケート結果から

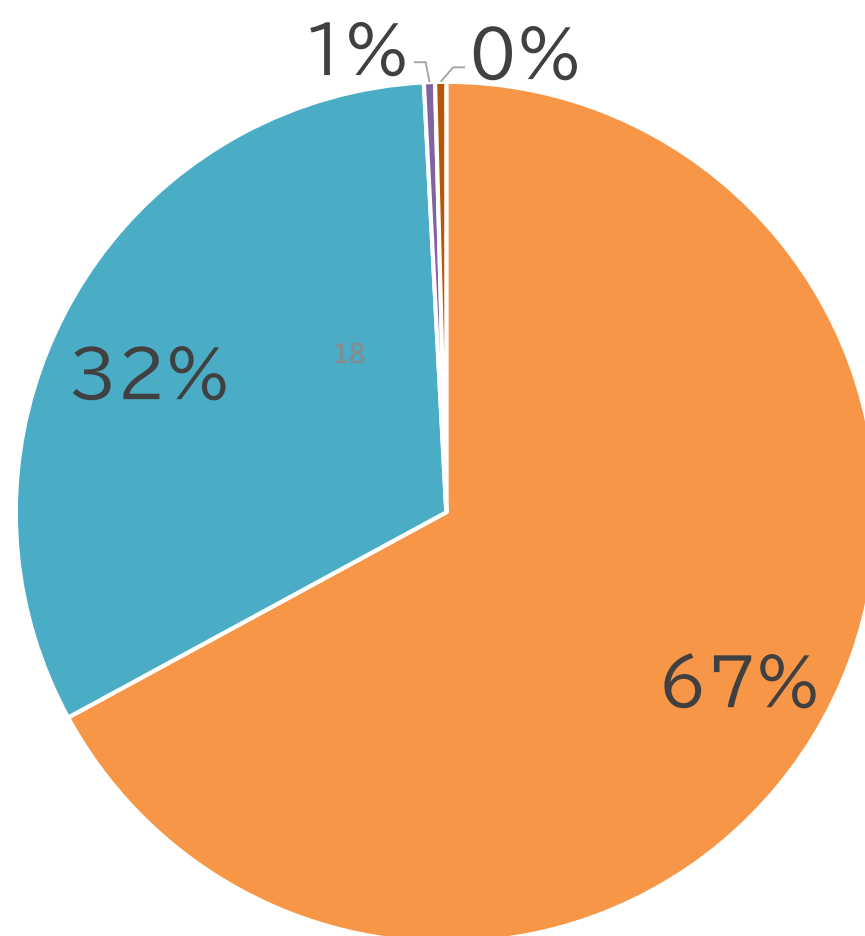
## 講義

- とても参考になった
- 参考になった
- あまり参考にならなかった
- 参考にならなかった



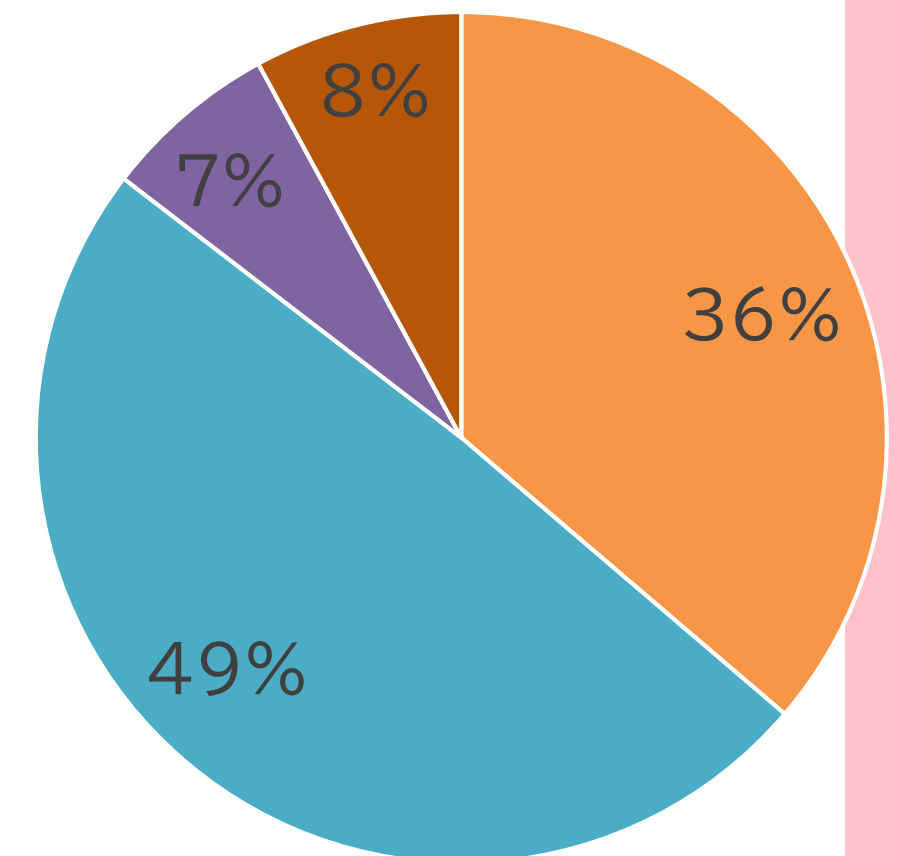
## 事例報告

- とても参考になった
- 参考になった
- あまり参考にならなかった
- 参考にならなかった



## 交流

- とても参考になった
- 参考になった
- あまり参考にならなかった
- 参考にならなかった



# 3. アンケート結果から ー自由記入欄よりー

- 「教科とJLPTを相互に意識し指導の関連性を付けることで、**どちらにとってもより高い学習効果やキャリア支援につながる**ということを認識できました」
- 「高校生の支援活動で、JLPTを取り上げようとしても、なかなか高校生が積極的に参加しようとしなため悩んでいましたが、今日の研修で、**自分自身の工夫や認識が不足していたことがわかりました。**」

第1回  
進路選択で重視される「日本語の力」

第2回  
キャリア開拓のための日本語指導

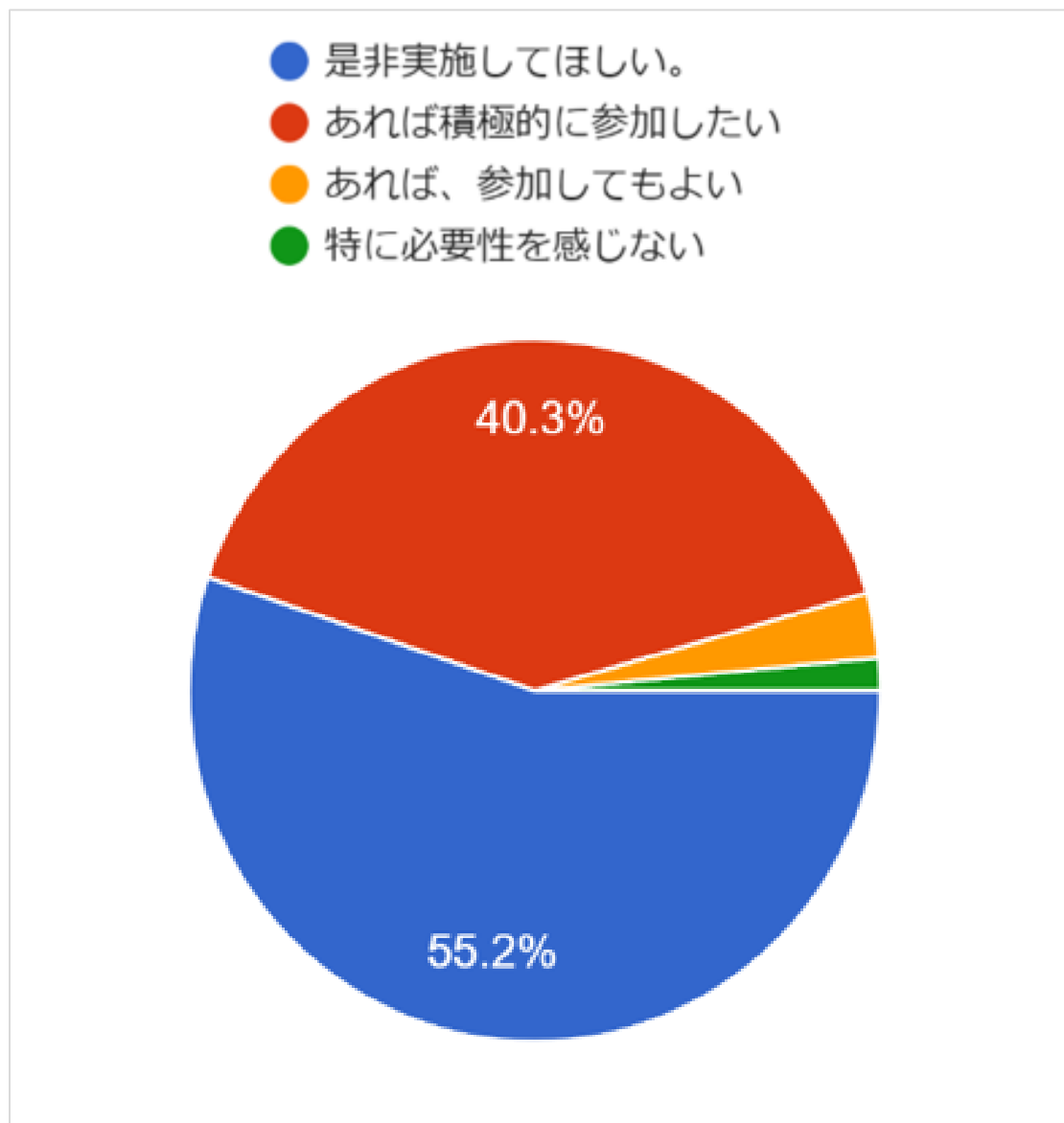
- 「共生」が**担当教員だけでなく校内全体に浸透していくプロセスを共有する必要性**を改めて感じました。」
- 「特定の語彙表現の学習するのではなく、**職業・専門的内容と日本語の統合型の学習により、ことばの形成だけでなく、協働による人間形成にまで及ぶ授業展開は大変参考になりました。**」
- 「キャリア開拓のための日本語として、**専門的なことではなく高校で求めている基本的なことが大事だと気づかされました。**

- 「事例でのお話は、学校の協力体制が十分に取られていない中で、**一非常勤講師がこんなこともできるんだ、と驚きました。私も高校の非常勤講師ですが、なかなか一歩が踏み出せないでいます。意識を変えなければいけませんね。**」
- 「支援者としてはどうしても日本語力を伸ばすことに力を注力してしまいがちですが、**言葉を使って社会参加、自治(学校など)に関わる経験こそが生きた学びとなる。**冒頭の斉藤先生のご説明と2校の実践報告が具体的な形で結びつき、とても実感としてわかりやすかった」

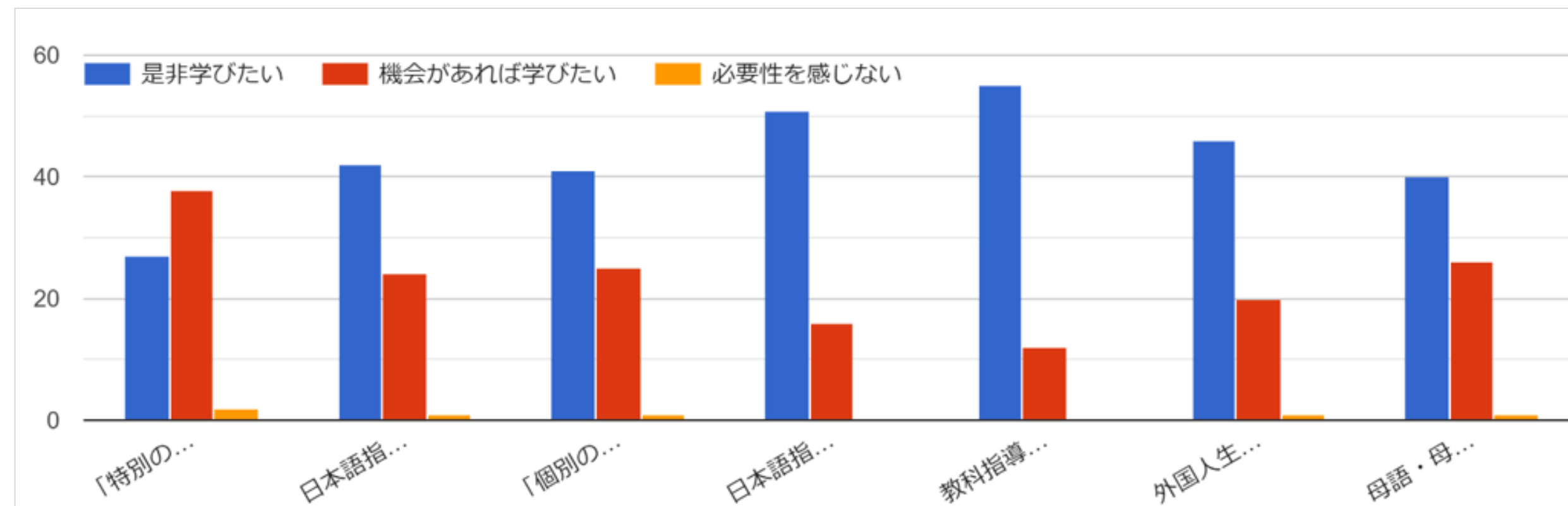
第3回  
社会参加のための力を育む日本語指導

# 3. アンケート結果から

## 次年度の研修について



## 参加したい研修内容



20

- (項目 左から)
- 「特別の教育課程」の制度とその実施方法
  - 日本語指導・外国人生徒等教育の受入体制・仕組みづくり
  - 「個別の指導計画」の作成と日本語指導の計画
  - 日本語指導の具体的な実施方法
  - 教科指導の工夫・教科と日本語の統合学習の実施方法
  - 外国人生徒対象のキャリア教育・市民性教育
  - 母語・母文化教育・多文化共生教育



## 4. 今後の研修に向けて

### 2025年度研修の実施

- 高等学校における日本語教育の現状と「特別の教育課程」の周知
- 日々の日本語指導に関する具体的情報
- 資質能力についてのアンケート項目を追加

### 交流について

- 単なる情報交換ではなく、<sup>21</sup> 具体・現実の問題解決方法を探る活動の場のデザイン

多様な現場の様々な立場の者が、  
互いの実践とその違いから学び合い、  
相互にエンパワーされる空間づくり

